

1. “漢字は覚えにくい”と言われる理由

必要は記憶の母

「必要は発明の母」という諺があります。必要が発明を生む原動力であることは確かですが、必要は記憶の母であることも、また、間

違いない事実だと思います。ひどく忘れっぽい人でも、忘れては大変だという大切なことだけは、決して忘れないものだからです。

文化勲章を受けた故岡潔博士のお話ですが、博士は、学生時代、試験のための記憶が、非常に上手だったと言います。一度読んだだけで覚えられ、試験が済むまでは覚えているが、試験が済むと、決めて、途端にすっかり忘れてしまう、ということでした。

これなどは、本当に、必要が生んだ記憶の代表的なものだと思いますが、これほどはっきりした経験はなくても、これに近い経験は、だれでもきっとあるに違いありません。

実はこれは、心理学者アールによって、実験され、発表されていることです。つまり、記憶する時の心構えというものが、記憶や忘却に大きな影響を持っているということ、アールは実験によって証明してい

るのです。

だから、大切なことをよく忘れるという人は、その大切なことを、実はそれほど大切なことだとは思っていないから忘れる、ということになります。つまり、忘れっぽい人というのは、物事に無関心な人、ということになります。

記憶の原理

記憶の原理に、「関心」とか、「興味」とかという言葉がよく挙げられています。記憶術という名の本には、必ずと言って良いほど、よく使われる言葉です。

物覚えが悪いと言われる人でも、自分が関心を持つこと、興味を持つことには、なかなかの記憶力を発揮するものです。どうも社会科が苦手だという人は、きっと社会的な事件に無関心な人です。つまり、関心や興味のあることはよく覚えられ、関心も興味もないことはよく覚えられない、ということになりますが、これをさらに掘り下げて考えてみますと、先に述べた「記憶する時の心構え」ということに帰着すると思います。

ある研究によれば、関心や興味のあることから自然に「記憶体制」が整えられ、記憶には、意志によって行われるものと、意志に関係なく行われるもののがあって、長期の記憶は、後者によって行われるものだというのです。だから、「覚えよう」という意志を働かせて行った記憶は、短期の記憶に属するものであるが、そののち(たい

ていは一時間以内に起る)、頭の中の「記憶体制」がこれを整理して、あるものは長期の記憶に移したり、あるものはこれを完全に忘れ去る、という仕事を行っているというのです。

つまり、私たちの頭の中で、私たちの意志を離れた「記憶体制」が、「これは覚えてやれ」「これは忘れてやれ」「これは一生だ」「これは一

コラム

豆知識

漢字の語源

【漢】 漢字は水に関係がないと思われるのに、なぜ“氵”なのか。漢字は今から3400年ほど昔、中国に殷という王朝があって、そこで発明され、使われたと言われている。それが秦の時代に何度か改定され、今の楷書に近い隸書という字体が制定された。そして今の楷書が制定されたのが、次の漢帝国の時代であった。「漢の文字」なので漢字と呼ばれている。

「漢」の名称は漢帝国を興した高皇帝が、その前に漢中(揚子江の北を並行して流れる大河“漢”又は“漢水”と呼ばれる河の中流にある都市)を支配する王で、漢王又は漢中王と呼ばれていたことによる。

つまり「漢」は河の名前であるから“氵”が使われているのだ。

【字】 家の形を表し、家の意味の「宀(宀)」と、子の姿を表し、子の意味の「子(子)」とを組合せた字。初めは“家に子が生れる”という意味の字であった。昔は、文字を単に「文」と言った。それがこれらを組合せて新しい文字を作るようになると、二人の男女が結婚し新しい生命が誕生するのに似ているので、二字の組合せで作ったものを「字」と言うようになった。

週間だ」と、選分けている、というのです。

忘れるのも大切

この心理学説によれば、覚えるのが仕事であるのと同じ程度に、忘れることも一つの仕事である、ということになります。

つまり、忘れるということは、「排出作用」という一つの立派な仕事なのです。ですから、「習った漢字を忘れた」ということは、「頭を働かせて、頭の中にある漢字を捨てた」ということになるのです。

「そんな馬鹿な。わざわざ頭を使って、漢字を忘れるものか」きっとそうお思いでしょう。でも、どうもこれが本当のようです。

生れつき、胃袋の小さい人があります。この人は、ちょっと食べ過ぎると、食べたものを吐き出してしまいます。これは、その人の意志で行われるものではありませんが、その人の生命を守ろうとする「排出作用」に違いありません。

脳には数十億の細胞があるので、記憶作用は、まず無限だと言っても差し支えがありません。だから頭の中が覚えることで一杯になるとい心配はありませんが、覚えたつもりでも、思い出せない、ということ

があります。

ですから、脳の記憶貯蔵庫に収める前に、一時置き場にしばらく置き、これを選分ける仕事が必要になるわけです。この一時置き場で選分ける仕事は覚えることがあまりに多く、また乱雑に入ってくると、整理し切れません。受付けを断ったり、緊急処置として、一旦受付けたものでも排出することになります。いつまでも整理できないでいますと脳が異常状態に陥るので、それを保護するために、「排出(忘却)作

コラム

部首 及

𠂔(入)と又(又)の合字。𠂔は人の象形、又は手の象形。前を行く人をうしろからつかまえ、とどめようとする形の字。“追いおよび”のが本義で、“手がとどく”ことから“ひきよせる”の意味。

【吸】 “ 𠂔で物をひきよせる”という意味で、“すう”ことを表した字。すえば、物が口にひきよせられることから、口と及とで、“すう”ことを表した。

【級】 “品分けされた糸”が本義。今では広く“品分け”“順序だて”の意味。

用」があるのだと思われま

私が、前の項で、「記憶体制」という言葉を使いましたが、それは、一時置き場に置いて整理する働きを指したものです。

漢字は難しくない

戦後、漢字の力が弱くなったということがよく言われます。と同時に、漢字が難しいということもよく言われます。しかし、私は、これは

当り前のことだと思っています。なぜかと言いますと、戦後、漢字を軽んずる傾向が生れ、「漢字なんか、覚えなくてもいいんだ」というような考えが、まず一部の教師の間に起り、それが生徒に影響して、漢字を勉強する場に、漢字なんてどうでもよいというような雰囲気漂っているからです。

漢字を学ぶ者が、「漢字なんてどうでもよい」「漢字を知らなくたって、たいしたことはない」というような考えでいたのでは、記憶体制が成立しません。こんな状態で学習したのでは、漢字がどんなに易しくても、記憶できるはずがありません。記憶貯蔵庫に収められないで、排出(忘却)されてしまうのです。

コラム

部首 言

と辛(けん)の形声字。“ものいう”こと。“言葉”の部首。

【評】 “公平に言う”意味の平と言との会意形声字。他人の良し悪しを私情をさしはさまずに言うのが「批評」。

【語】 “吾が人に言う”。「かたる」こと、また「かたる言葉」。

【計】 数の意味の十と言との会意字。“数をかぞえる”こと。

【誠】 “成功する言葉”という意味の成と言との会意形声字。虚偽の言葉は一時的には成功するかに見えても決していつまでも続くものではない。“真心から出る言葉”こそ、成功に導く言葉であるという意味から出来た字。

【記】 糸の意味の己と言との会意形声字。言葉を糸のように長く続けて書きしるすこと。